

初戦作品応募締切

5月16日事務局必着

2月22日のエントリー開始から5月16日の締め切りまでで昨年度大会から20校上回る604校より応募がありました。うち写真甲子園初応募が76校で、歴代最多の応募校数となりました。

初戦審査会

5月23日

写真甲子園に応募をいただいた全国604校の高校写真部・サークルなどを地区ごとに11のブロックに分け審査が行われました。審査は8名の審査委員により実際のプリントを見て行われ、80校のブロック審査会進出校が決定しました。写真甲子園では初戦審査会から本戦大会での審査会まで一貫して「心・技・眼」の3観点で評価され、作品のテーマ性、撮影やプリントの技術力、表現力・独創力のそれぞれが審査されます。



ブロック審査会進出80校 決定

ブロック審査会

6月8-9日

初戦審査会を突破した80校の作品を対象にブロック審査会が行われました。東京都内の審査会場とブロック審査会へ進出した学校とをオンラインでつなぎ、学校からの作品プレゼンテーションと、質疑などを含む講評によって審査会が行われました。ブロック審査会を通過した18校は本戦大会に進出し、高校写真部日本一を決める最終決戦に挑みます。



本戦大会進出18校 決定

本戦大会

7月30-8月2日

作品テーマ

ファースト公開審査会「またたき」
ファイナル公開審査会「たいせつ」

本戦大会進出校18校 54名の選手が東川町に集結し、大雪山国立公園一帯をフィールドに熱い戦いを繰り広げました。2回の公開審査会を行い、宮城県白石工業高等学校が高校写真部日本一となりました！

大会1日目
(7月30日)

・開会式



選手の皆さん、緊張した様子で開会式に臨み「写真甲子園2024」本戦大会がスタートしました！

大会2日目
(7月31日)

・撮影1日目
・セレクト会議



東川町(旭岳)・美瑛町の2つの撮影フィールドにて撮影を行い、審査会に向けたセレクト会議を実施。翌日のファースト公開審査会に向けて選手は緊張感が高まっていきます。

大会3日目
(8月1日)

・ファースト
公開審査会
・撮影2日目



ファースト公開審査会で審査委員から指摘された課題と向き合いながら、旭川市・東神楽町の2つの撮影フィールドで体力も厳しくなってくる中、日本一に向けてシャッターを切り続けました！

大会4日目
(8月2日)

・撮影3日目
・セレクト会議
・ファイナル
公開審査会
・閉会式
・表彰式



日本一を目指して早朝から東川町にて最後の撮影に臨み、ファイナル公開審査会では選手の凄まじい成長を見せていました。表彰式では悔しい思いをした高校もありますが、充実した大会となりました！